

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷 1Fいぶき		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成28年3月24日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0191300029-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年4月に開設して以来6年が経過しようとしていますが、地域密着型の事業所として、様々な方面から地域の方々にご協力やご支援を頂き、しっかりと地域に根差した事業所に成長していると実感しています。
今年度10月から併設しているDSの活動室を利用して、認知症カフェを実施しており、GHの職員や入居者様のご家族様が、毎回スタッフやボランティア、参加者として地域の方とふれあい、カフェのない日にも気軽に立ち寄って頂けるようになりました。
又、ご家族様のご理解やご協力もあり、2か月に1度の運営推進会議では活発な意見交換や、ご家族様と地域住民の方々、市や包括の職員さんとの距離も近く、和気あいあいとした雰囲気の中で和やかな会議となっている事も自慢の一つです。入居者様の要介護度が上がってしまう中、一人一人の持っている可能性を引き出すべく、スタッフ一丸となって様々な事に挑戦し、毎月の行事の他に、日々の生活の中で出来るちょっとした外出や、季節に合わせた日常レクやおやつレクを積極的に取り入れ、入居者様がご自分の居場所として寛ぎ楽しむことが出来る様、取り組んでおります。更に今年度は、管理者自ら市で行っている認知症の方を支える家族支援事業での講話や認知症サポーター養成講座の講師などを通して、地域の方々にも認知症についてのご理解を深めて頂ける様、その活動の幅を広げております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成28年4月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 共栄の郷」は幹線道路に面した住宅地にあり、2ユニット2階建ての1階には同一法人のデイサービスなどの事業所が併設している。利用者は日々周辺の住宅地や公園、小学校付近を散歩したり、近くの店で外食や買い物を楽しんでいる。季節の花見など遠出の外出もしている。開設6年が経過し、近隣とは身近な付き合いがあり、昨年は近所の農家の協力で、利用者と一緒に大根堀りに参加して漬物づくりをしている。小・中学生の体験学習なども継続して受け入れており、地域に根差した関わりが増えている。管理者は認知症サポーター養成講座の講師として市の認知症の方を支える家族支援事業にも協力し地域に貢献している。運営推進会議では毎回テーマを設定して意見を交換し、勉強会も行い充実した会議になっている。家族アンケートの実施や来訪時の意見なども参考に家族との関係を大切に、今後は利用者の写真を年ごとにアルバムにして提供することも考えている。職員の個別の事情に応じて勤務時間帯を柔軟にしたり、研修の受講を薦めて意欲的にケアが行えるように配慮している。職員は勉強会や日々サービスの内容を評価し、3か月毎に接遇チェックで振り返り、良質なサービスを提供している。温かな言葉かけで利用者の希望や意志を確認し、笑顔で寄り添いながら暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの掲示板の他、職員のネームプレートの裏側にも理念を記したものを携帯しており、理念を意識したケアについて、勉強会を行う等、職員全員で取り組んでいる。	理念とケア理念の中に、地域社会の一員として、その人らしく暮らせる内容を明記し、日々実践につなげている。ミーティングで住民との関わりを話し合い、理念に触れて確認している。毎月の行事には理念を意識して、家族と連携を密にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小・中学校との交流の他、近隣に住む住民の方とも日常的に関わりを持ち、畑で作った野菜や花のやり取りをしたり、10月から併設の事業所で実施している認知症カフェの参加者やボランティアとも交流が深まっている。	小学生の来訪、中学生の体験学習を継続して受け入れている。近所の農家の協力で利用者も大根堀りに参加して漬物をホームで作るなど、近所との自然な付き合いが広がっている。建物内の事業所合同のバーベキューには近隣住民が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度の市の「認知症高齢者を支える家族支援事業」での講演や、地域の大学での講義、認知症サポーター養成講座、認知症カフェの実施など多方面で地域貢献を行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席して下さるご家族様も増え、地域からも民生委員、老人クラブ会長、福祉委員の方が参加して下さり、毎月テーマを決めて勉強会を行うことで、活発なご意見が聞かれ、サービスの向上につながっている。	各会議で運営や外部評価結果などを報告し、ミニ勉強会を行っている。職員の研修報告を基に認知症について、身体拘束、感染症などのテーマで話し合っている。詳細な議事録と資料を全家族に送付する事で、家族の参加や関心につながっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、市の担当者とは、電話やメールを通して連絡を密にとる事ができる確かなアドバイスを頂いている。	法人が中心に「オレンジカフェ」をデイサービスの場で行う事で、地域包括支援センター職員との関わりが多くなり、アドバイスや情報を得ている。管理者は各場所で認知症サポーター養成講座の講師を引き受けて市に協力し、地域に貢献している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体例については各ユニットの事務所、スタッフルームに掲示しており、常に身体拘束防止を意識したケアを実践できるよう、勉強会や接遇チェックなどを行なっているが、玄関についてはDSと共有しており、交通量の多い幹線道路に面している事から、外側の扉のみ施錠している。	勉強会の際に禁止行為の11項目を確認したり、掲示を見て、職員は内容を理解している。昨年は法人内にある身体拘束防止委員会で行った研修に事例を提供して参加するとともに、事業所内でも全員で振り返りを行い、拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、身体拘束と虐待に関する事業所内の勉強会を持っているほか、法人内研修・外部研修にも数名の職員が参加し、更に年に数回接遇チェックを実施し、虐待防止に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な外部研修で権利擁護と制度に関して学ぶ機会があり、又、実際に成年後見に関する問い合わせもあり、支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や、契約内容に変更があった場合には、運営規定や重要事項説明書等を用いて、その内容について、わかり易くご家族様等に説明し、不安や疑問に答え、安心して頂ける様取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の入り口にご意見箱がある他、年に1度のアンケート調査を行い、法人の苦情対応委員会あて返送して頂く事で、事業所に対する率直なご意見を頂く機会を設け、運営に反映させるべく、職員間で検証する機会を持っている。	家族の来訪時に介護計画の意向も聞いている。昨年家族アンケートの返送を法人宛てにし、結果を事業所で検討し運営推進会議に報告している。家族の意向を把握して満足度の向上に取り組んでいる。「ご意見ノート」はあまり活用されていない。	利用者ごとの「ご意見ノート」を活用し、言葉で表せない些細な思いをも記録し、職員間で更に共有できるような工夫に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの他、年に2回の個人面談を行い、職員一人一人の職務や運営に関する意見を聞く場を設けているが、日常的に管理者に対して自由に意見を発信できる環境も整えている。	ミーティングで勉強会や介護計画更新などで意見を交換し、利用者の状態変化時にはケース会議を開いている。昨年からユニットのリーダー制をとり、また管理者の執務室、事務所が休憩の場所なので、職員が気軽に相談できる環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「プライベートの充実なくして仕事には集中できない」という観点から、職員一人一人の私生活を重視して、より働きやすい勤務体制や給与水準に関する相談を日ごろから行っており、又、一人一人の力量に合わせたスキルアップの支援を行いやりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、法人内、外部研修などの機会を職員に対して積極的に勧め、研修にかかる費用があれば、法人で負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH間の見学交流会を通して、スタッフ間の交流を図る機会や、市内の介護事業所職員の交流会もあるほか、認知症カフェ等で他事業所や包括の職員と交流する機会も増えた。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し、健康状態やADLの確認と現在の困りごとなどを傾聴しスタッフ間で共有する事で、安心して頂ける環境を整えている。又、入居直後もコミュニケーションの機会を意識的に多く持ち、不安があれば解消できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、心配事や不安に感じている事、困りごとなどを十分に傾聴し、可能な限りのアドバイスをさせて頂き、入居後もコミュニケーションの機会を意識的に多くして、相談しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や施設見学の段階から、ご家族様やご本人のご意見に耳を傾け、必要に応じて、他のサービスの提案をさせて頂く事もあり、選択肢の幅を広げた上で、ご本人やご家族様に自己決定して頂くよう努めており、入居後も法人内の各部署と連携し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を送る上で、ご本人のできる事を一つでも多く引き出せるような工夫や働きかけを行い、その機会を作る事で自尊心の維持にも努めている。また、職員一人一人が入居者様の立場に立って支援できるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や状態に変化があった場合にはご家族様に丁寧に状況を報告し、行事や誕生会にもご家族様にご参加頂ける様働きかける事でご本人との絆を大切にしながら共に支える事をテーマにご家族様との協働に取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人など馴染みのある方々の面会や、ご家族様の協力のもとお墓参りや親族との年越し、趣味の温泉などに出かける事もあり、馴染みの関係の継続に努めている。	友人や元職場の関係者が継続して来訪している。買い物で馴染みの方に逢い、その後仲間だったグループと食事をしたり、馴染みの方の来訪時には一緒に喫茶店に出かけている。以前から利用していた店舗の買い物に同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や相性などを把握し、必要に応じて職員が間に入り良い関係が作れる様支援している。また、少人数での外食やレクなど入居者様同士が関わり合える環境作りにも積極的に取り組んでいる。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後間もなく亡くなられた方にはお悔やみ訪問をしたり、入居時の写真に全職員のメッセージを添えたアルバムをお届けし、別の施設へ移られた方には入所に関する手続等の支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの暮らしへの希望や意向の把握に努めているが、困難な場合には、ご家族様に相談したり、その時々のご本人の表情からお気持ちを読み取れる様配慮し、支援に繋げている。	特に個別対応の際に利用者の想いを聴くことが多く、職員間で話し合い介護計画に反映させている。生活歴などの情報を、「私の記録」に利用者ごと記録し、今後も新しい情報の追記を考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際の面談やご家族様からの情報を基にこれまでの生活歴やサービス利用経過等を把握し日々の生活の中でのヒントを得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方の細やかな観察を行い、職員間で共有する事で、心身の状況や残存能力の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティングや月1回のケース検討会、ケアプランの評価欄への書き込みをもとに職員間で意見交換しケアプランに反映している。	職員は計画書の第2表の内容に沿って、随時評価をしている。計画作成担当者は3ヵ月毎に、評価を参考にして課題分析やモニタリング表を作成し、6ヵ月毎に更新計画を作成している。分かる利用者には計画書の内容を説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを記録台のそばに置き、プランに沿った記録を実施しながら、ご本人のことで訴えを記録し、日々の中で気付きや様子に変化があれば連絡ノートに記録し申し送る等情報共有しながら支援に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズの変化に応じて、機能訓練士による身体機能の評価や生活リハの提案、地域の図書館等のインフォーマルなサービスの導入に向けての取り組みを始めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われるイベントや地域の図書館、幼稚園や小学校での行事、小・中学生の体験学習の受け入れなど、地域社会とふれあい、QOLの向上を目指した関わりを行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の主治医のもとでの定期検査の他、身体状況の変化があった際には24時間体制で指示が受けられる様な体制となっており、主治医以外のかかりつけ医への受診も職員が付き添い支援している。	母体の医療法人医院の定期受診の他、専門的な他科受診、かかりつけ医などの受診に、殆ど事業所で通院介助している。家族が対応する時は事前に病院に健康情報をFAXし、家族にも内容を伝えていく。	

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の中での変化や気づきを看護師に相談しアドバイスを必要に応じた受診や処置に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護添書や介護添書で入退院時の情報交換を行っているほか、入院時には職員が頻回に面会に行き、病院関係者と情報交換を行ったり、可能な限り介助に参加するなどして、自らの目でご本人の状態を確認できる体制を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する指針については説明しているが、入居者様の身体的な変化や認知症の進行に伴い、その都度ご家族様に現状等を報告し、今後についての相談を個別に行なっている。	「重度化に関する対応指針」にある看取りについて説明し同意を得ている。重度化から点滴が必要な場合も2週間以内に食事が口から摂れるように工夫している。昨年は家族の希望で看取りに近い事例があり、振り返りを行いケアにつなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時等の緊急人備えたマニュアル、連絡網を作成しているほか、普通救命講習の受講や、体調変化時の対応についての勉強会を行い緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施しており、今年度は特にダミー人形を使用した避難訓練等、より実践に則した訓練を実施し、地域住民や運営推進委員、地域に住むご家族様とも緊急時の協力体制を築くことが出来ている。	消防署、住民の協力で日中を想定した避難訓練を建物全体で行い、夜間を想定した独自の訓練では避難の方法を実際に体験して確認している。防災マニュアルを作成し、地震などの避難場所は確認しているが対応方法の話し合いは行っていない。	事業所内で地震などを想定し、共用空間や居室内の危険個所の確認や、各ケア場面での対応について話し合う機会を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の立場に立って、一人一人の思いを尊重し、人生の先輩として敬う気持ちで声掛けや関わりを持っており「No.」と言わないケアを心掛けている。	利用者への呼びかけは「さん」づけとしている。職員は3か月に1回、接遇チェック表で自己確認を行い、定期的に接遇やマナーの勉強会も実施している。記録類は事務所に安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの機会を増やし、ご自分の思いや希望を自由に表出できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば朝食の時間や、日中の活動の時間は全員が参加するような決まりではなく、声をかけ希望者のみで行なったり、自室でゆっくりしたい方には無理強いする事なく自由に選択して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望を聞き、月に1度の訪問美容をうけたり、モーニングケアの際にはご本人がその日の衣服を選択できるような支援を行なっている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食味の味見や盛り付け、後片付けにも参加して頂き、行事などではメニューを決めて頂く他、外食や出前などの機会を持ち、様々な形で食事を楽しめる様支援している。	法人の献立をもとに誕生日や行事には利用者の希望に沿ったメニューにしている。利用者と職員が会話しながら一緒に食事をしている。利用者が味見や盛り付け、漬物作りなどを手伝っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分な栄養と水分量が無理なく取れる様、ご本人の嗜好に合わせて、咀嚼、嚥下機能に合わせた形態で提供しており、通常の食事で栄養が摂れない方には栄養補助食品の補食を取り入れている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの状態に応じた口腔ケアと義歯の洗浄管理などを行うほか、訪問歯科による定期検査や治療も行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により職員間で情報共有を行い、それぞれに合った下着やパットの使用を検討したり、自発的な動作を察知した自立支援を行なっている。また、排泄の間隔が空いた時はさりげない声掛けで促す配慮をしている。	自力でトイレに行ける方は4分の1ほどで、誘導や介助が必要な方は排泄チェック表でパターンを把握し、耳元で、羞恥心に配慮しながら声掛け誘導している。日中は全員がトイレで排泄でき、夜間は2割の方が部屋で排泄用品を交換している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料の摂取や水分量に配慮し、排便の間隔を職員間で共有、運動の促しの他、必要に応じて主治医と相談の上、整腸剤などでのコントロールをしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の体調や希望により、午前・午後とも入浴が可能となっている。また、ご本人の好みや皮膚状態に合わせてシャンプー、ボディソープ、入浴剤の使用で入浴を楽しめるよう支援し、希望により同性介助にも配慮している。	毎日、午前午後とも入浴可能で、各利用者が週2回以上の入浴をしている。拒否があった方も現在はスムーズに入浴できている。入浴剤を使用したり、歌を歌いながら楽しく入浴している。希望があれば同性介助としている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や睡眠のパターンを把握し、睡眠不足や疲労、緊張などに合わせて必要に応じた休息の支援を行なっている。また、ご本人の希望に合わせて、居室やリビングでの休息を提案しつつ、昼夜逆転にならないような支援もしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬情ファイルで一人一人の服薬状況を把握するほか、薬に変更があった場合にはその内容と服薬後の様子観察や状態の把握を行い職員間で共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の性格や生活歴に合わせた役割や楽しみ事を考え、体調や希望に沿いながら行って頂いている。また、季節に合った外出行事や漬物作りなど生活に根付いた活動も取り入れ、張り合いや気分転換に繋げている。			

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様のご希望に応じた外出の支援を行い、外出行事にはご家族様もお誘いして一緒に楽しみ、ご家族様にも支援して頂けるように取り組んでいる。	日常的に周辺の住宅地や公園、小学校付近などに数人ずつ交代で散歩に出かけており、中には毎日出かける方もいる。喫茶店や本屋、ハンバーガーショップに通う方もいる。年間行事で花見や紅葉狩り、買い物ツアー、ジンギスカンやお蕎麦の夕食に出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと、ある程度自己管理が可能と思われる入居者様については少額のお金をご本人に所持して頂いている。又、訪問販売や外出の機会も多く、希望の買い物の支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて「電話をかけますか？」とこちらから声掛けし、通話できるよう支援している。手紙についてはアプローチしても応じてくれることはなく、受け取るのみとなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファを置き、好きな時に皆さんがくつろげるよう清潔で過ごしやすい環境づくりをし、掲示板には行事の写真や小学生の手紙などを掲示している。また、温度や湿度にも配慮し、適宜空気の入れ替えを行い環境整備に努めている。	居間兼食堂は日当たりがよく開放的で、トイレや浴室も使いやすく造られ、温度や湿度も調整されている。壁にはカレンダーや時計、職員が手作りした季節の装飾、職員の写真、お便りなどが飾られている。電子ピアノや観葉植物を配置している。滑りにくく歩きやすい床となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに食卓テーブルを囲んだりソファに座って新聞を読んだり会話を楽しめる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で長年使用していた家具を持参して頂き、馴染みの物や思い出の物に囲まれた生活が送れるよう配慮している。	居室には利用者が持ち込んだ家具やテレビ、椅子、仏壇、ぬいぐるみ、植物などが置かれ、居心地よく過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーや家族の写真が飾られ、部屋の入口には立派な表札が掲げられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札をかけ、ご自分の部屋が解りやすい様に、ドアの手すりに飾りをつけて、安全で自立した生活が送れる様支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷 2Fうらら		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成28年3月24日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年4月に開設して以来6年が経過しようとしていますが、地域密着型の事業所として、様々な方面から地域の方々にご協力やご支援を頂き、しっかりと地域に根差した事業所に成長していると実感しています。
今年度10月から併設しているDSの活動室を利用して、認知症カフェを実施しており、GHの職員や入居者様のご家族様が、毎回スタッフやボランティア、参加者として地域の方とふれあい、カフェのない日にも気軽に立ち寄って頂けるようになりました。
又、ご家族様のご理解やご協力もあり、2か月に1度の運営推進会議では活発な意見交換や、ご家族様と地域住民の方々、市や包括の職員さんとの距離も近く、和気あいあいとした雰囲気の中で和やかな会議となっている事も自慢の一つです。入居者様の要介護度が上がってしまう中、一人一人の持っている可能性を引き出すべく、スタッフ一丸となって様々な事に挑戦し、毎月の行事の他に、日々の生活の中で出来るちょっとした外出や、季節に合わせた日常レクやおやつレクを積極的に取り入れ、入居者様ご自分の居場所として寛ぎ楽しむことが出来る様、取り組んでおります。更に今年度は、管理者自ら市で行っている認知症の方を支える家族支援事業での講話や認知症サポーター養成講座の講師などを通して、地域の方々に認知症についてのご理解を深めて頂ける様、その活動の幅を広げております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0191300029-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年4月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの掲示板の他、職員のネームプレートの裏側にも理念を記したものを携帯しており、理念を意識したケアについて、勉強会を行う等、職員全員で取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小・中学校との交流の他、近隣に住む住民の方とも日常的に関わりを持ち、畑で作った野菜や花のやり取りをしたり、10月から併設の事業所で実施している認知症カフェの参加者やボランティアとも交流が深まっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度の市の「認知症高齢者を支える家族支援事業」での講演や、地域の大学での講義、認知症サポーター養成講座、認知症カフェの実施など多方面で地域貢献を行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席して下さるご家族様も増え、地域からも民生委員、老人クラブ会長、福祉委員の方々が参加して下さり、毎月テーマを決めて勉強会を行うことで、活発なご意見が聞かれ、サービスの向上につながっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、市の担当者とは、電話やメールを通して連絡を密にとる事ができる確かなアドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体例については各ユニットの事務所、スタッフルームに掲示しており、常に身体拘束防止を意識したケアを実践できるよう、勉強会や接遇チェックなどを行なっているが、玄関についてはDSと共有しており、交通量の多い幹線道路に面している事から、外側の扉のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、身体拘束と虐待に関する事業所内の勉強会を持っているほか、法人内研修・外部研修にも数名の職員が参加し、更に年に数回接遇チェックを実施し、虐待防止に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な外部研修で権利擁護と制度に関して学ぶ機会があり、又、実際に成年後見に関する問い合わせもあり、支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や、契約内容に変更があった場合には、運営規定や重要事項説明書等を用いて、その内容について、わかり易くご家族様等に説明し、不安や疑問に答え、安心して頂ける様取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の入り口にご意見箱がある他、年に1度のアンケート調査を行い、法人の苦情対応委員会あて返送して頂く事で、事業所に対する率直なご意見を頂く機会を設け、運営に反映させるべく、職員間で検証する機会を持っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの他、年に2回の個人面談を行い、職員一人一人の職務や運営に関する意見を聞く場を設けているが、日常的に管理者に対して自由に意見を発信できる環境も整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「プライベートの充実なくして仕事には集中できない」という観点から、職員一人一人の私生活を重視して、より働きやすい勤務体制や給与水準に関する相談を日ごろから行っており、又、一人一人の力量に合わせたスキルアップの支援を行いやりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、法人内、外部研修などの機会を職員に対して積極的に勧め、研修にかかる費用があれば、法人で負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH間の見学交流会を通して、スタッフ間の交流を図る機会や、市内の介護事業所職員の交流会もあるほか、認知症カフェ等で他事業所や包括の職員と交流する機会も増えた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し、健康状態やADLの確認と現在の困りごとなどを傾聴しスタッフ間で共有する事で、安心して頂ける環境を整えている。又、入居直後もコミュニケーションの機会を意識的に多く持ち、不安があれば解消できるよう配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、心配事や不安に感じている事、困りごとなどを十分に傾聴し、可能な限りのアドバイスをさせて頂き、入居後もコミュニケーションの機会を意識的に多くして、相談しやすい関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や施設見学段階から、ご家族様やご本人のご意見に耳を傾け、必要に応じて、他のサービスの提案をさせて頂く事もあり、選択肢の幅を広げた上で、ご本人やご家族様に自己決定して頂くよう努めており、入居後も法人内の各部署と連携し支援している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、ゴミ出し、食器洗いや食器拭き、収納、掃除などを一緒に行ない、協力し合っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や行事にお誘いし、一緒に楽しみながら、ご本人だけではなく、他の入居者様に対する見守りや職員との協力などを通して、GH全体が一つの家族のような関係性が出来つつある。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のスーパーで入居者様の元同僚の方とお会いし、その後懐かしさから、面会にさせて頂いたり、同僚の方のお宅に入居者様が招かれたりする交流があったり、昔馴染みのご友人やご近所の方が訪ねてきてくださることもある。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの交流以外にもお互いの居室を行き来したり、居室に閉じこもりがちの方にお茶を届けて頂くようお願いして、居室内でゆっくりと談笑できる機会を設けたりしている。			

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後まもなく亡くなられた方にはお悔やみ訪問をしたり、入居時の写真に全職員のメッセージを添えたアルバムをお届けし、別の施設へ移られた方には入所に関する手続等の支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	談笑をや傾聴を通して、ご本人の意向をくみとれる様努力している。又、意思表示が困難な入居者様には、表情の変化などからどんな関わりが出来るのかを職員間で検討し実践している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人から今までの生活歴などをお聞きし、どんなニーズでどんなサービスを利用していたのかを把握し、ご本人の安心と安全が確保できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活での気づきをケアプランの評価欄に自由に記入できるようになっており、カンファレンス等でも積極的に意見交換出来ている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々気付いた事をケアプランの評価欄に記載したり、カンファレンスで各職員がアイデアを出し合ったり、ご本人やご家族様のご意見を生活記録に記載する事で、ご意見の把握と反映に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録には、ご本人の訴え等を御本人の言葉で記入するようにしており、日々の気づきも評価欄や連絡ノートなどを活用し全職員が共有しモニタリングやアセスメントに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズの変化に応じて、機能訓練士による身体機能の評価や生活リハの提案、地域の図書館等のインフォーマルなサービスの導入に向けての取り組みを始めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われるイベントや地域の図書館、幼稚園や小学校での行事、小・中学生の体験学習の受け入れなど、地域社会とふれあい、QOLの向上を目指した関わりを行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の主治医のもとでの定期検査以外に、ご本人やご家族様のご意向に合わせ、職員によるかかりつけ医への受診介助を適宜行っている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の気付きを電話や定期受診の際に必要なに応じて相談できており、協力医療機関の看護師ともGHで安心して安全な生活が送れる様訪問看護の導入や助言を受けられる協力体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、職員がこまめに面会に行き、面会時に食事介助など可能な範囲での介助に当たり、看護師との情報共有が出来様な体制を取っており、早期退院に向けて病院側と連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する指針については説明しているが、入居者様の身体的な変化や認知症の進行に伴い、その都度ご家族様に現状等を報告し、今後についての相談を個別に行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼすべての職員が心肺蘇生やAEDの使用方法を普通救命講習により習得しており、その後も定期的に講習を受講できるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施しており、今年度は特にダミー人形を使用した避難訓練等、より実践に則した訓練を実施し、地域住民や運営推進委員、地域に住むご家族様とも緊急時の協力体制を築くことが出来ている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	衣服を裏返しに着てしまい、他者から指摘される事等があるが、両者の自尊心を傷つけない様に個別対応を行い、無理強いするのではなく、両者に納得して頂ける様な声掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝のレクや家事への参加もご本人の意思を尊重して、参加や不参加が自由に選択できるよう、また、テレビ番組、飲み物、行事のメニューなども入居者様に選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には全員一緒に食卓を囲むようにしているが混乱や拒否が強い方には場所や時間を替えて個別対応を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の着方が解らなくなったり、季節に合わない衣服を選んで、それを否定するのではなく、ご本人と一緒に考え納得できるよう声掛けしている。クリスマス行事ではヘアアクセサリーや好きな色のスリッパなどをプレゼントしている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の嗜好に合わせた飲み物の提供や、ご本人の好みに合わせた食事形態などを工夫している。又、行事食では特に入居者様の表情もやわらぎ、日々の準備や片付けなども協力して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの咀嚼、嚥下能力に応じた食事形態で提供したり、なるべく常食に近づけられる様な取り組み、又必要な栄養や水分確保のための個別対応などを通して体調管理が出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの状態に応じた口腔ケアと義歯の洗浄管理などを行うほか、訪問歯科による定期検査や治療も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様それぞれの尿意や便意のサインを察知し、トイレへご案内したり、間隔が空いている方にはプライバシーに配慮しさりげない声掛けを行い、自立に向けた支援を行なっている。又、立位不可能な方も日中は二人介助でトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時のヤクルトの他、十分な水分が摂れる様好みのものを提供し、特に便秘がちな方には手作りのブルーベリージュースを提供している。また、朝食後は必ずトイレに座って頂き排便を促す習慣をつけている方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日等は決めずに毎日入浴できる環境にしており、全員が週に2回以上入浴できるよう声掛けを行なっている。また、入浴が嫌いな方には無理強いすることなく、日時や職員・タイミングなどを替え、自ら入りたくなるような声掛けを工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に、高齢で体力が低下している方には、ご本人のタイミングで起床して頂いたり、朝食後や昼食後にベッドで休んで頂く等、メリハリのある生活と十分な休息に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日服用している薬に変更があったり、体調の変化で臨時薬が出た場合は、職員間でその内容を周知し、特に副作用などを含むご本人の様子観察を強化し、適切な対応を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の能力や希望に合わせて食器拭きや収納、洗濯物たたみ、ゴミ出しの他、行事での挨拶や、唄の先生等、役割に張り合いを持ち、義務にならない様配慮している。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や喫茶店等個人の希望に応じて外出支援を行なっている。また、天気の良い日はいつでもスタッフと近くを散歩したり、月に一度の外出行事にはご家族様をお誘いし、行き先も入居者様の希望を反映できるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと、ある程度自己管理が可能と思われる入居者様については少額のお金をご本人に所持して頂いている。又、訪問販売や外出の機会も多く、希望の買い物の支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて「電話をかけますか？」とこちらから声掛けし、通話できるよう支援している。手紙についてはアプローチしても応じてくれることはなく、受け取るのみとなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度を管理し、必要に応じて暖房・換気などの調整をし、快適に過ごして頂ける様な環境を整え、一人一人が思い思いの場所でくつろげるよう、ソファやいすを配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの自席以外にも、ソファやいすを配置し、好きな場所で新聞を読んだり、縫物をしたり、テレビ番組を選んで見たり、お茶を飲みながら職員や気の合った入居者様と談笑できる環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドなどの家具は、ご本人が使い慣れたものをご持参頂いており、生活習慣によって、布団の上げ下げやベッドメイキングを行なっている方もおり、自宅での環境に近い空間づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の動線に障害物がないか、安全第一に家具の配置を実施し、一人一人の能力に応じてベッドに手すりをつける等起き上がりの自立を促している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご家族様の声を反映させるべく、「ご意見ノート」を作成しているが、なかなかうまく活用できていない。	ご家族様の声無き声をケアに反映させるべく、「ご意見ノート」の活用方法を見直し、職員間で情報共有ができるよう取り組む。	面会時のご家族様の些細な表情や仕草の中から、言葉には出せない思いを察し、「ご意見ノート」に記載していくことで、カンファレンスなどを通してご家族様の御意向を、職員間で確認し共有していく。	1年間
2	35	火災に対する避難訓練は実施しているが、地震などの大きな自然災害を含む避難訓練について、場面別の避難方法を検討する機会がない。	地震や風水害、火災などの災害に対して、場面別の避難方法を検討し職員間に周知徹底させる。	ミーティングや勉強会を通して、入浴時、就寝時、排泄介助の最中など場面別、災害別に避難方法を検討し、マニュアル化して職員間で共有することで有事に備える。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。